

育和会だより

やさしくね やさしくね やさしいことはつよいこと

3

March

令和3年 No.144

発行：社会福祉法人 育和会

〒791-1201

愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 1447

TEL:0892-21-0777

社会福祉法人 育和会

『先生、友だちとの出会い』

3月は「別れの季節」となります。今年は、17人の子どもたちが園を巣立っていきます。

子どもたちにとってとても大切な時期に成長を共に見守らせていただき感謝致します。

子どもたちは、園生活の中で様々な出会いがあります。こども園では、先生と友だちの出会いがたくさんあります。日々の生活の中で、楽しいことや嬉しいことを共有することで、仲間意識が芽生え、互いの気持ちに寄り添うことができるようになっていきます。時には、うまく伝わらずぶつかることもあります。繰り返し経験することで、話したり気持ちを聞いたりしながら関わるようになっていきます。私たち保育教諭は、子ども一人ひとりの気持ちを受け止めながら友だちとの関わりを見守っています。

これから先もたくさんの新しい出会いがあります。そこでの経験をもとに友だちの輪を広げていってほしいと思います。

(久万こども園 保育教諭 大野 明香音)



『Everyone is unique!』

おひさま保育園では、開園してから初めての卒園児を送り出します。かわいい3名の子どもたちがおひさま保育園を巣立っていきます。なほちゃんはおしゃべりがとても上手で、おしゃまな女の子です。さゆかちゃんは気持ちがとてもやさしくて、穏やかです。りおちゃんは自分をしっかり持った、芯の強い子です。皆それぞれが個性を持っています。私たち保育士は、一人ひとりの個性を受け止め、その子らしさを大切に保育してきました。4月からは新しい保育園や幼稚園での生活が始まります。おひさま保育園でお友だちや先生と過ごした楽しい思い出が、次へのステップになればと思います。

どうか新しい環境でも、自分らしくのびのびと園生活を送ってくださいね。「おひさま」のように暖かい心を忘れずに…。

(おひさま保育園 園長 西田 紀子)



『かわいい卒園児3名です!!』

久万こども園(幼保連携型認定こども園)

『音楽がある生活』

子どもたちがこども園で過ごす時間の中には、音楽と触れ合う時間がたくさんあります。

年齢によって触れ合い方は様々ですが、音楽は保育の中に欠かせない物です。1.2歳児の子どもたちは、好きな音楽が流れると身体を揺らしたり、保育教諭と一緒に手を叩いたりして、リズム遊びを楽しみます。また、保育教諭が歌う季節の歌に興味を持ち、一緒に歌う姿や楽器を奏でる姿も見られます。3歳以上児になると、自分で音楽を感じ自発的な表現をするようになっていきます。毎月行っているリトミックの活動では、音楽に親しみながらのびのびと身体を動かし、友だちと表現する楽しさを共有し合う事が出来ています。表現力が豊かになる時期に、音楽を通して自由に表現できる場をこれからも大切にしていきたいと思います。



『みんな音が鳴るのかな♪』



『保育教諭と一緒にリズム遊び』



『自由に表現して遊んでいます』

(保育教諭 脇川 ひかる)

NIKO NIKO 館(児童館)

『コロナ対策』

新型コロナウイルスの影響による活動の自粛、縮小など新しい生活様式への移行が始まって、1年以上が経過しました。NIKO NIKO 館では、引き続きコロナ対策として館内の消毒、換気、三密回避等を実施していきます。利用される方は以下の項目にご協力くださいますようお願いいたします。



『消毒してウイルス除菌』



『入口で検温をします』

- マスク着用
- 検温
- 手指の消毒
- 利用時間 2時間まで
- 飲食はご遠慮ください



今後ともご不便をおかけします 『来館者名簿に記入してね』
が、NIKO NIKO 館を皆様にご利用いただくために、引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

(児童厚生員 渡部 梨香)

放課後子ども教室 【学校・家庭・地域連携推進事業】

活動報告『ITキッズ』

久万川重広さんによるパソコン教室。使えなくなった古いパソコンを使って解体作業を体験しました。「どんな仕組みになっているんだろう？」ドライバーを手に細かい部品がぎっしり詰まったパソコンの裏側を子どもたちは興味津々で覗いていました。普段何気なく使っている便利なパソコンを別の角度から見てみるとまた新しい発見や疑問を見つけることができたようでした。



『メカニック女子!!』



『ふむふむ…なるほど』



『パソコンの中初めて見たい』

NIKO NIKO クラブ(学童保育)

『放課後の自由な過ごし方』

「今日は何する？」友達と一緒に遊びの相談をして、今日も楽しい放課後の始まりです。1年生の女の子たちが集中して何か工作を始めました。出来上がったのは魚釣りゲーム。図鑑を見ているいろいろな種類の魚を工夫して作っている児童もいました。発案し、協力して作って仲間のみんなで遊ぶという小学生ならではの発展があり、この一年の成長を感じました。二階のほしの部屋を覗いてみると、壁に向かって座り静かに読書をする児童がいます。下の階のざわざわとした喧騒から離れ、落ち着いて過ごしたい児童たちのやすらぎスポットになっていて、それぞれその日の気分にあった時間の過ごし方を大切にしています。



『ゆび編み初チャレンジ』



『手作りの魚釣りゲーム』



『静かな読書タイム』

(放課後児童支援員 渡部 梨香)

Happy House

『三つ子の魂百まで』

古くから語り継がれた「三つ子の魂百まで」とは、「幼いころに体得した性格は、いくら年をとっても変わるものではない」という意味のあることわざです。乳幼児期に過ごす環境の中で、運動能力、感覚、感情、思考、言語能力など日々成長していきます。乳幼児期に体験して得た様々なものは、その子が大人になった時「その子のあたりまえ」になるということです。それだけ、乳幼児期の環境、かかわり方が大事なことになるのかと考えさせられ、あれもこれもしっかりと教えなきゃ…と思ってしまいますが、そうではないんです。特別なことをしなければいけないということではなく、難しく考える必要もありません。真っ白な状態で産まれてきた赤ちゃんを、愛おしく思い、たくさん愛してあげること。語りかける、笑いかける、抱きしめてあげる、そんなたくさんの愛情をもらうことで、このままの自分でいいんだと思い、人を愛する、信頼する、大切に思う心が育まれるのです。心で感じたことは、「三つ子の魂百まで」のことわざ通り、大人になっても変わることがないのです。



『ママと一緒ににっこり』



『好き・好き・ザッー』

(センター長 山内 はづき)

家庭教育支援 久万高原 Happy サポート

『心の距離が近くなったこの1年』

年度初めから世の中も子育て家庭もコロナで一変しました。Happy House は5月末まで閉館しました。6月から開館、7月からはふれあい広場などの行事も再開されました。密を避けるため来館時間も人数も制限しましたが、お互いが譲り合い、助け合って Happy House らしさが戻ってきました。お母さんたちは少人数でゆっくり語ることが多くなりました。この1年利用者にご不便をおかけしましたが、心の距離はグッと近くなったように思います。子どもたちも思い思いに過ごしています。元気に遊ぶ2.3才児。動きの出てきた1才児。生まれて間もない0才児。第2子、第3子の妊娠・出産の話も聞こえて来ます。新しい友だちが増えることを楽しみにしています。Happy サポートは、主に妊娠期から乳幼児期のお子さんのいる親子を応援しています。活動拠点のハッピーハウスには常時スタッフがいますので安心です。気軽にご利用ください。



『遊びを見守るお母さん』



(子育てサポーター 今井 久美子) 『いっしょにあそぼう』

A colorful illustration of a woman with blonde hair, wearing a green hat and a white dress, sitting on a grassy lawn. She is holding a blue book and reading to a young child with brown hair. A yellow dog is sitting next to them. The scene is surrounded by various flowers and a small black dot is visible in the upper left corner.

松山市マップ